

# 外部評価委員会会議記録

記録:木村

日 時 2017年3月17日(金) 午後2時～4時  
場 所 ほくぶ幼稚園 地域連携室  
参 加 者 久保正章、伊東山徹代、津地尚文、船島和子、園田道子、永田なるみ、  
坂梨梨絵、永田扶美、垂水美沙、清田史和、清田和之、清田明子、木村牧子、  
松村明子、田名利加美、飯塚雄一、木村さつき

## (日 程)

- 学園より挨拶 <理事長 清田史和>  
外部評価委員の方々の紹介 <園 長 清田明子>
- 1、熊本地震によせて <顧 問 清田和之>
- ・重要文化財である熊本城被害を4月16日余震、本震直後に元熊日記者矢加部和氏  
よって撮影され作成した写真集の紹介
  - ・熊本城復元のため会の立ち上げ、写真集づくり、募金活動、シンポジウム、RKKによる  
VTRづくり、写真集の英訳本づくりなど会の活動内容を説明、近々北部公民館でお城カ  
フェトークを開催予定で今後も熊本城復元のため活動をやっていくことを報告
- 2、ほくぶ幼稚園の運営状況報告 <理事長 清田史和>
- 『平成28年度北部学園事業 振り返り』の資料を元に説明。
- ・組織運営状況では職員一人ひとりにメールアドレスがあり、会議の他に情報共有をメー  
ルで行っている
  - ・開設予定だった小規模保育所は地震発生のために土地に多くの問題がでたため、取り  
やめほくぶ幼稚園の定員を増やした。また、予算についても小規模保育所の4月以降の  
開設であれば、補助金はでないため、取り下げた。
  - ・地震被害状況説明。C棟がひどく保育ができない状況のため、早急に修理した。A棟・B  
棟と修理しているがまだ済んでいない。費用については県・市からの補助金、民間義援  
金等をあてることを説明
- 3、保育教育実践及び地域連携について <園 長 清田明子>
- <地域連携について>
- ・防災については地域の自治会長や地域の方々(かなこぎ苑さんも含め)の協力がどう  
取り合えるのかこれから会議に参加して取り組んでいきたい。
- <保育教育実践>
- ・学校法人は未満児の保育ができなかったため、認可外保育を行ってきた長い歴史があ  
ること
  - ・2年保育が主流だった時代から3歳児保育があたり前の時代を経て、今、2歳児に着目  
され、子どもの育ちに目を向ける(学者)と親子間のアプローチが違ってきている、保育  
者の専門性が問われている。
  - ・0・1・2歳児の育ち、3歳以上児の保育、食育について資料を元に説明

## 5、参加者の皆様よりの意見交換

・認定子ども園になって土曜日に行事が多くなった。保護者同士のつながりが薄くなった。以前は損得ではなく、良いつながりがあった。

子どもは、散歩で見つけたノビルを持って帰り「焼くとおいしいよ！」と目をキラキラさせて帰ってくる。親はおしっこがかかっているかもと内心心配しながらも一緒に食べている。

・月1回の読み聞かせの会に参加している。先日、赤ちゃんをおんぶして、もう一人手を引いているお母さんに声をかけたら、涙を浮かべて「大変すぎます」といわれショックだった。アパートで1歳・2歳の子育てをしている娘もアパートの人から「うるさい！」と言われビクビクしているとのこと子育てが難しいのか

・保育者が大変な保護者の声を拾い上げることは課題。直接、相談に来られるのは特徴的な子どもを持つ子の親のみ。園で孤立している親がいる。「今はきつけれど、人間に厚味がでるよ」というと涙される保護者も…。(園長)

・今の親世代は大変、じいちゃん・ばあちゃん世代はどうだったかな。子育てが内向きになってしまって、何をやっていいかわからない人が増えている。地域の方と手を組んで何かやってもらおうとよいのではないか。何か出来ることをやりたい。

・自分たちの子育て時代と違って核家族が増えてきている。それが負担増になってきているのでは…。運動会にたくさんかされていたのでじいちゃん・ばあちゃんと接する機会を園で多く作ってあげて欲しい。

・子育てが大変とは具体的にどこか？時間的・経済的に余裕がないのか？(理事長)

・井戸端会議のような困っている人の話を聞く機会がないのか…。

・人間関係づくりが圧倒的に足りない。愛着がない。昔はサザエさん時代(祖父・祖母・おば・おじ・兄弟の大家族)、今は、クレヨンしんちゃん時代の核家族で父親がいない時子どもが泣くとどうしてよいかかわからない。話を聞いてあげる。ママも褒められるとうれしい。救われる。

・本当に困っている人は、子育ての集まりに来られない。園に気軽に話せる場所を作って欲しい。夫婦で子育てのことを話されますか？

・夫婦で良く話します。 ・うちは話さない。 ・子育ては自分にまかされている。

・単身赴任でいないがその日によって違うがよく話す。

・4人の子どもがいるが子ども同士での関わりが多く助けられた。幼稚園の送迎バス停で仲良くなったママと話せた。共感してもらえることで助かった。

ほくぶ幼稚園では、支援の必要な方はどのくらいいますか？

自分の子どもが園に通っている時もクラスと一緒に保育されていた。その体験は子どもが大きくなってから違ってきた。その後の人生に影響を与えてきた。ぜひ、続けて欲しい。

発達障害など早く気付いて支援していくと違うのではないか。どうアプローチされていますか？

・0・1・2歳児保育をみていて、ちょっと違うなと思うことがあるが、発達過程の関わり方の問題の場合もあるし、保護者が困っていないということで様子を見ることも多い。

・平成 27 年度は地域型支援事業を利用して相談会を行っていたが、平成 28 年度から廃止されたので、来年度からは二か月に 1 回、おひさまクラブの園田先生や外部の方に依頼して相談会を行う予定です(園長)

「おひさまクラブの園田先生もご出席いただいているのでご意見をお願いします。」

・家庭で困らない理由は明らかで、家族のメンバーは一緒、過ごしやすいようにその子に合わせた環境になっているしその子の要求を満たしているからです。

2 歳前までに気軽に相談する場所があれば良いのだが…。

何回か会って話しているうちにいろいろ困っている事を言われるようになる(夜泣きがひどいことなど出てくる)校区の保健師に相談するのが良い。

「笑わないんです」と言われる保護者もいます。

・園で子育てカフェをやって欲しい。

・道路に面した旧給食室に図書室と誰でも入れる場所を作りたいと構想をたてている。

ディスカッションしてボランティアを募ることも…(園長)

・かなこぎ苑では“オレンジカフェ”を認知症家族対象に月 1 回行っている。自由にどうぞと言っているが気軽に相談することが多い。

・準備会を立ち上げましょう。(理事長)

・子どもの教育は園の理念があってできるのだから、先生方にくり返し、くり返し伝えて欲しい。

お母さん方の SOS をどう拾い上げるか先生方の資質にかかわると思う。いつだったら、先生方の話が聞ける。思春期の時期の大変な時、どう話し合っていくのかを身に付けて行って欲しい。

幼稚園ファームも水撒き・トラクターなどいろいろな人の協力が必要なので軌道に乗せていきたい。おやじの会の運営も含め、園全体で成長していきたいと思う。理念に立ち返る。

・北部学園らしい外部評価委員会だなどおもった。子育ての悩み、障害児教育など園開設当初から「地域に開かれた園づくり」があったので実現できたらと思う。

・育児サークルで出会った在園されている方が、「今日、ほくぶ幼稚園で告知された」といわれたが…。

・子育てひろば「ぽっかぽか」からつながっていくこともある。

担任が苦しんでいる時、多動・暴力・暴言が多い場合は、園長より伝えている。

・お母さん方と話す機会がない。お迎えのスタイルが違ってきた。1号・2号となり、お迎えの時、担任の先生がいない場合もあった。昔のようなスタイルがあったらいいな…。

おひさまネットの合同反省会でもでたが、迎えに来ているときにお互いにコミュニケーションが取れたら違っていただけたのかな…と個人的に思う。

・あおぞら(2号)が 150 名で 1 号のお迎えが各クラス数名のため合同にしている。(園長)

・仕事をする人が多くなった。感覚が違ってきた。お迎えの時間にコミュニケーションは難しい。お迎え前にサロンにきておしゃべりしてお迎えが良いのでは…。土曜日にサロンを開いてゆっくり。

・相談コーナーを開いていることを伝えてることをする。

以上、多くのご意見・感想等をいただきました。 閉会予定(4時:00分)

2017.5.より実施改善した内容> 地域に開かれていく幼稚園の課題

★ようちえん図書室の解放

保護者が子育ての悩みも聞けるように、子どもを迎えに来る1時間に合わせて図書室開放し、働く保護者も本に親しみ、ゆっくりできる空間とした。(週2回実施)実際に「本に親しむ」ちうことだけでなく、絵本相談員の先生に、子育ての悩みなども聞いてもらえるということで、想像以上の利用者になっている。<毎回10名前後>